

国立大学図書館の現状と課題

東京大学附属図書館事務部長

大 山 努

1. 国立大学図書館の現状 ～学術情報基盤実態調査から見える課題～

- ・電子ジャーナルをはじめとするコンテンツ整備 <蔵書>
- ・自学自習を支える環境整備 <場>
- ・職員の育成、キャリア・パス、専門性確保 <人材>
- ・オープンサイエンスへの対応<新たな役割>

2. 国立大学図書館の目指すもの ～国立大学図書館協会のビジョンと活動～

- ・国立大学図書館協会の概要
- ・国立大学図書館協会ビジョン2025（2021年6月）
 - ・3つの重点領域： 知の共有、知の創出、知の媒介
- ・大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
 - ・大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）
 - ・これからの学術情報システム構築検討委員会
 - ・オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

3. 国立大学図書館の役割 ～大学・国の方針との関係を中心に～

- ・教育基本法、学校教育法：大学の機能
- ・国立大学法人法：中期目標と中期計画
- ・大学のビジョン、戦略
- ・国の政策動向

4. 電子ジャーナルをめぐる問題 <蔵書>の課題

- ・電子ジャーナル経費の推移
- ・海外の動向
- ・我が国の対応

5. 学生の自学自習のための支援 <場>の課題

- ・アクティブ・ラーニング・スペース（ラーニング・commons）の整備状況
- ・状況変化（ポストコロナ、光熱費高騰、物理的な場の克服）への対応

6. オープンサイエンス 新たな課題

- ・オープンサイエンスに関する動向

- ・大学図書館とオープンサイエンス

7. 人材の確保と育成 <人材>の課題

- ・採用とキャリア・パスの現状と課題
- ・職員数、採用数の推移：規模の縮小、業務委託の増加
- ・職員像の変化：何が求められて、どのように働くか

8. おわりに